



【本号のトピックス】

認知症患者の義歯診療ガイドライン作成のための最終パネル会議開催！／
第29回学術大会報告／第5回歯科衛生士関連委員会主催セミナー報告／
理事のご挨拶／専門医活動レポート／委員会だより／支部だより ほか

認知症患者の義歯診療ガイドライン作成のための最終パネル会議開催！

ガイドライン委員会前幹事 矢儀一智

5月23日午後、東京歯科大学水道橋校舎本館にて、認知症患者の義歯診療ガイドライン作成のための最終パネル会議が開催されました。本学会では初の企画となったこのパネル会議では、2017年度から本学会ガイドライン委員会を中心に作成が開始された10個の義歯診療に関する臨床的疑問とそれらに対する推奨文が公開され、パネリストとして参加した義歯患者、認知症患者家族、介護士から意見聴取が行われました。

会場では歯科関連企業、出版・報道関係者約40名が聴衆として3時間にわたる協議を見つめるなか、ガイドライン委員からそれぞれの推奨文にいたった経緯について解説が行われた後、認知症患者の義歯診療について現場で生じている問題や要望を含めた議論が積極的に交わされました。パネリストからは、家族として義歯を作ることが十分可能と考えられるにもかかわらず、患者が認知症とわかると義歯を作ってもらえなかった事例が紹介され、家族や介護職からみた認知症患者の義歯診療における歯科医療側の取り組み方への要望が出されました。また介護職の立場から「お口の衛生管理のことは排泄の介助よりも家族の協力が得にくく見過ごされやすい、家族が介護しているということと家族が患者の入れ歯を取り外して管理できるということは別であることが多い」などの介護現場の現実が紹介され、認知症患者の口腔衛生管理を担っていくべき家族や介護職を含めた介護者に対する口腔衛生管理の知識・技術の普及活動が不足しているとの意見が出されました。これらの協議内容は、認知症高齢者の健康な口腔を維持するための歯科医療システム構築上の課題を現場の視点で提示するものだったと思います。

末筆ではございますが、パネル会議でご意見を賜りましたパネリストの方々、ガイドライン作成に携わっていただきました先生方、また当日の会場設営に多大なご協力をいただきました東京歯科大学老年歯科補綴学講座教室員ならびに学会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。



会見に応じる櫻井 薫前理事長



主な関係各位での集合写真